

KYOTO HIYOSHI KOZUMI

木住

A to Z



Introduction

【序奏】

日吉町の玄関口でもある「道の駅スプリングスひよし」より北に向って府道を走ると、目の前に緑深き樹々が迫ってきます。まさに「木が住む」という名が似合うこの入り口に、名前の由来となった笛吹神社が建っています。

かつて、「木住」の人々は材木や薪など“木びき”で生計を立てており、笛吹神社の祭神とあいまって『木住』と名がついたと伝えられています。

時代の変化で木住の現状も大きく変化しましたが、笛吹神社の神木とともに、生きた先人の足跡を次世代に伝えていきたいと思っています。

History

【由来】

笛吹神社

推古天皇の時代に秦河勝という人が夢のお告げで木住に来られ、立派なケヤキの大木を見つけ、この木で太秦の広隆寺を建てられました。そのお礼に、その跡に小さな宮を建て、大山住尊を御神体としてお祀りになりました。木住と言う地名は木の住処とこのご神体から取ったものと思われます。

湯浅家

湯浅家の祖先は紀州の湯浅の庄司であり、建武の頃には楠正成に加担して没落したが、南北朝の合一の時、南朝の後亀山天皇に従い、神器を持って入京して、その功により世木郷を与えられ、明徳4年（1393年）に丹波世木庄に定住した湯浅宗朝から始まります。その後、丹波守護職、時の管領細川家に仕えて丹波目代となりました。応仁・文明の乱の時、湯浅宗武は細川勝之に代わって討死しました。勝之は丹波に逃れて宗武の妹を娶って、宗正が誕生。湯浅家を嗣ぎ、宗正の子の時に、郷士となりました。宗正の娘は細川藤孝（幽斎）の子、宗清を生み、湯浅家を相続させました。腹違いの兄忠興は光秀の娘玉（ガラシャ）と結婚し、忠利をもうけ、熊本藩主となりました。宗清は忠利の叔父にあたり、細川家は湯浅家を細川家第一の親戚としてあつかい、幕末まで続けました。

- A AjisaiRoad
紫陽花(アジサイロード)
- B Bandobashi
番戸橋
- C Chikurin
竹林
- D Daichidou
大智堂
- E Egao
笑顔
- F Fuefuki
笛吹神社
- G Gimin
義民(湯浅太兵衛永矩)
- H Housyunji
逢春寺
- I Hiuchi-iwa
火打岩
- J Jyuichimen
十一面観音
- K Kozumi
木住区集会所
- L Line
猪谷林道
- M Mattake
まっただけ
- N NantanBusTerminal
南丹市営バスターミナル
- O Oosugi
大杉(パワースポット)
- P PikaPika
ピカピカ(夜空)
- Q Question
首なし地藏
- R Rokujizou
六地藏
- S Shidare
シダレザクラ
- T TanbaKuromame
丹波黒大豆
- U Undoukai
運動会(秋の祭典)
- V Vacation
バケーション(木住川)
- W Wa
輪
- X Shinsuikouen
木住親水公園(交流)
- Y Yuasa
湯浅五郎兵衛 忍法「天井張り付」の術
- Z amidabutsuZazou
阿弥陀堂(座像)
- 病んでいる所によく効く薬



木住から生畑を結ぶ道路は生活道路として必要不可欠な道路です。この道路に美しい景観を作ろうと区民あげてアジサイを植樹し、「アジサイロード」と命名しました。開花期の6月になると遠方から写真を撮りに来られる方も多く見受けられます。アジサイの花言葉は時期や土壌によって変化することから「移り気、浮気、無常」です。色ごとの花言葉は「青」が辛抱強い愛情、「ピンク」は元氣な女性、「白」は寛容といわれています。

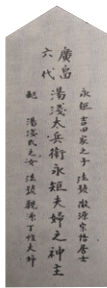
A 紫陽花(アジサイロード)
AjisaiRoad

木住区市道最上流にかかる橋で、現在の橋は平成5年(1993)6月に架設されました。水面から高さのあるこの橋は、度重なる台風や豪雨などの水害にも耐えるなど地域の交通を護ってきました。初夏になると周辺にはホテルが乱舞し、都会からの見物客で賑わうなど、隠れた観光名所です。(「木住七つの架け橋」の一つ)

B 番戸橋
Bandobashi

木住には素晴らしい竹林が…というわけはありませんが、農業が盛んな木住地区では竹材はとても重宝されており、昔は秋になるとあちこちの田んぼや畑で竹作りの稲木干しを見ることができました。

C 竹林
Chikurin



天和3年(1683)の創建、学業成就、合格祈願、「靈験あらたか」な文殊さん…として、古くから信仰を集め、8月下旬の例祭には、地区を揚げて盛大なお祭りが行われています。当初、陰阻(けんそ)な山の中腹にあったものを1994年、現在地に移築しました。

D 大智堂 Daichidō

通学バスを待つ子供たち、井戸端会議のご婦人たち、農作業の合間にちょっと休憩を…人が集うと自然と笑顔になるのは「田舎の特権」なのかもしれません。ここ、木住地区でも毎日どこかでキラキラした素敵な笑顔に出会えますよ。

E 笑顔 Egao

お宮の名前を笛の社と呼びましたが、その訳は大山住尊は住吉大社に祭られている住吉大明神であり、住吉大明神は農業(田)の神様として神代の昔からお神楽を奉ずる時、笛を吹かれる役におられたので大山住尊を笛吹大明神といい、その社を笛吹神社と名乗ったと伝えられています。

F 笛吹神社 Fuefuki

明和・安永年間(1764～80)、園部藩の重税にあえぐ上木住の人々を救済するため、領主に免税の直訴を行いました。当時、直訴はご法度、太兵衛は捕らえられ牢死しましたが、その後藩より税を半減され人々は大喜び、しかし、代償として、藩より「歌舞音曲」を禁じられましたが、今に至っても、人々は同家を尊敬して止みません。(写真:唯一現存金の位牌)

G 義民(湯浅太兵衛永矩) Gimmin

“一休さん”の流れを受け継ぐ、大徳寺派のお寺です。春は花、秋は紅葉が美しく、また湯浅五郎兵衛の念持(深く帰依)仏は、当寺にお祀りしてあります。当寺は向陽山逢春寺といい、京都市北区紫野にある臨済宗大本山大徳寺の塔頭玉林院の末寺として大永年間(1521-1527)僧桂木の開基とされています。

H 逢春寺 Housyunji

下木住の猪谷林道を進んだ先に突如現れる大きな岩山…その岩山の石と石を打ち合わせると火花が出ることから「火打岩」といわれるようになったそうです。

I 火打岩 Huchi-iwa



1700年代に、天災と“はやり病”が発生。

苦しむ下木住の人々は宝暦4年(1760)、この地に石の十一面観音さまをお祀りし、災難除けの額をかけました。

この由来は、台座「法第字塔」に石文として残されています。

J 十一面観音 Jyuchimen

昭和27年(1952)3月、木住区公民館は区民全員参加での新築落成式が行われました。区民総会・敬老会の行事を中心に当時娯楽が少なかった時期に、映画・芝居が行われましたが、昭和60年代前半には公民館は解体され、同所に木住区集会所と名称も新たに新築されました。

K 木住区集会所 Kozumi

猪谷林道は下木住区内にあり、林野庁が木住につけた唯一の林道です。秋には草刈りを行い、かつてはまったけ狩りに至る主要な道路で、現在も山の管理のために使われています。

L 猪谷林道 Line

まったけと言えば「丹波松茸」ですが、近年ではほとんどお目にかかることはありません。40年程前木住区では、年間500万円程の収穫があったとのこと。丹波松茸は香りの良さと弾力に富んだ歯ごたえで、平安時代から食されていましたが、近年は自然環境の変化により、収穫量が激減し非常に高価なものになってしまいました。

M まったけ Mattake

府道から集落の玄関口には南丹市営バスターミナルがあります。平成6年(1994)10月より町営バスターミナルとして運行を開始、平成18年(2006)1月よりは市営になり今日に至っています。木住区内へは世木線が運行し、日吉駅から殿田小学校を經由し、生畑区の「ひよしフォレストリゾート山の家」まで、主に小学生の通学に利用され、地域の足を担っています。

N 南丹市営バスターミナル NantanBusTerminal

当地へは「スプリングスひよし」から歩いて10分程の距離にあり、これはスゴイ…とビックリすること請合い!!の大杉があります!そっと触れると、身体中に力がみなぎり、清々しい気持ちになること請合い!! 木住の笛吹神社のご神木とされる巨木は、幹周り6.4m、樹高約46m(2019年3月現在)は日吉町最大で、京都の自然200選にも選ばれています。

O 大杉(パワースポット) Oosugi



見上げると満点の星空
にうっとり...

都会で生まれ育った人
が田舎の星空を眺めると、「空の彼方には、こんなにも星があったのか!」と感激するでしょう!
「大空に鳴り響く雷の音」、「雪降る夜の静寂」すべてが木住(田舎)の宝物なのです。

P ピカピカ(夜空) Pikapika

お地藏さんには、名のとおり首がない。初めから首がなかったのか、それとも途中でなくなったものなのか、定かではありません。
言い伝えでは木住の谷に老人と孫が二人で住んでいた。二人の暮らしは貧しかった。ある時、孫が目を患い、やがて盲目になりましたが、老人は「首のないお地藏を祀るように」とのお告げを夢に見、それに従うと孫の目はたちまち見えるようになったとの事です。

Q 首なし地藏 Question

多くの墓地の入り口には六地藏があります。六道とは地獄(じごく)・餓鬼(がき)・畜生(ちくしょう)・修羅(しゅら)・人間界・天上界のそれぞれにあって、衆生(しゅじょう)の苦悩を救済する地藏菩薩(じざうぼさつ)のこと。六地藏には、寺院・路傍・墓地などに六体の地藏が祀られています。

R 六地藏 Rokujizou

昭和63年(1988)、国民体育大会アーチェリー会場の指定を受け、選手や来場者への歓迎の意味を込めて植樹されたシダレザクラは、地域の区民に育てられて樹齢30年を超えました。毎年春にはソメイヨシノの花散る頃から艶やかな姿で咲き始めています。

S シダレザクラ Shidare

日吉の黒豆は「日吉丸」と呼ばれ、大粒で肉質もよく、朝霧が多く昼夜の寒暖差が大きいこの地域特有の風土によって育ちます。かつて、木住は4ヘクタールもある大生産地でしたが、近年は生産量の減少が続いていました。しかし、一昨年には1ターンされた方が黒豆生産に挑戦をされており、期待がかかっています。

T 丹波黒豆 TanbaKurumame

毎年10月の体育の日前後には秋の祭典と称して運動会が開催されます。当日は地域外に越された親族も参加し、午前中は空き缶釣りや玉入れ等の競技を中心に、午後は豪華景品が振舞われる〇×クイズやビンゴゲーム等を行い賑やかに!
お昼はグラウンドにて町民全員お弁当をいただき交流を図っています!

U 運動会(秋の祭典) Undoukai



笛吹神社の
祭事暦



1月1日 — 初詣

1月15日 — とんど

3月 — 祈年祭

10月 — 秋祭

11月 — 新嘗祭

12月 — 正月用
門松づくり

Z 阿弥陀堂（座像）

病んでいる所によく効く薬

amidabutsu
Zazou

上木住の小高い場所に、阿弥陀佛を祀っています。例祭は1月7日頃の日曜日です。
お祓いをした赤土を新酒で溶き、先ず、仏さまの額、両脇に、胸、腹、両脇に塗りつけ、その後、参拝者にも同様のこととし、無病息災、家内安全を祈願しています。

Y 湯浅五郎兵衛 忍法「天井張り付」の術

Yuasa

幕末、倒幕の志士として活躍。1865年～67年頃には、西郷どん（西郷隆盛）、桂小五郎（木戸孝允）等とも親交、明治維新の立役者の一人です。
園部藩から捕縛に来た兵士を、忍法で張り付けたエピソードが残っています。旧邸の写真は、日吉町郷土資料館に保管され、石碑は木住に現存しています。

X 木住親水公園（交流）

Shinsuikouen

木住区集会所の前には砂場や遊具等が整い、木住川に親しめる市営の公園があります。区民にとっては運動会やグランドゴルフ等のスポーツ施設の場として、遠方よりは小さな子供が安全に川に親しめ、バーベキュー等ができる設備の整った無料のアウトドアの場として、好評を得ています。

W 輪 Wa

木住区には自治組織の他に高齢者を見守る「木住サロン」や女性グループの「なごみ会」、笛吹神社の祭事を行う氏子会など沢山のグループが活動しています。とりわけ70歳以上が参加する「満寿美会」は毎週木曜日にはグランドゴルフを行うなど、精力的に活動をされています。

V バケーション（木住川） Vacation

木住川は一級河川として生畑地域から全長約6kmの狭い山あいの中を流れ、「物干し竿が懸けられる」「うなぎの寝床」とも言われたと聞いています。又、河道が自然のままに流れ、蛇行しているため、木住川には七つの橋が架けられおり、それぞれ名前がついています。



山の神さま

木住の入口の山中に「山の神」の祠が5つ祀ってあります。昔、木住の人は木を扱う仕事が生業でしたので、山の神は自分たちの仕事場である山を守護する神として大切にされていたそうです。因みに山の神は女神であると言われています。



夢の七つ橋

蛇行の多い木住川には下流から宮の平橋(昭和63)、笛吹橋(昭和63)、大町下橋(昭和62)、大町上橋(平成元)、高井根橋(平成4)、観音橋(平成元)、番戸橋(平成5)の七つの橋が架かっています。

木住は「湯浅」姓が多く、葛屋の家には家紋の九曜紋が誇らしく掲げています。九曜紋は細川家の家紋で知られています。室町時代末期の湯浅家の湯浅宗清と細川忠興とは異母兄弟でした。その為、細川家は湯浅氏を親戚として扱い、細川家の家紋である「九曜」の使用を許されました。両家の親交は明治時代まで及びました。真ん中の大きな丸は太陽、その周囲を囲っている小さな丸は星を表しています。

九曜紋



笛吹山

江戸時代、笛吹山には楓樹が多く、晩秋の眺望は絶景とされ「和漢三才図絵」では千歳山・富小山(八木町)と併せ丹波三山と言われていました。丹波の名勝として右の歌が歌われました。

嵐吹く笛吹山の秋風に
萬代の秋くらべこそすれ



電車で

JR京都駅から山陰本線(嵯峨野線)約60分
JR大阪駅から約1時間30分
最寄駅/日吉駅



車で

京都縦貫自動車道(園部IC)から約20分
最寄IC/園部IC

木住AtoZ

発行日 2019年3月

制作・発行 木住区
〒629-0332 京都府南丹市日吉町木住木度ヶ鼻7-3
区長 湯浅昭三(090-7962-1316)

協力 塩見直紀
(半農半X研究所代表、福知山公立大学特任准教授、
総務省地域力創造アドバイザー)



販売価格 100円

